

Honolulu Cardiac Rehabilitation Workshop 2015 報告書 (1)

医療法人社団博栄会 浮間中央病院 リハビリテーション科
山元佐和子

多職種参加型ワークショップの効果 —Honolulu Workshop 2015 参加報告—

はじめに

本邦における心臓リハビリテーションの診療現場では、2000年代に入ってからチーム医療がより重要視されるようになってきている。文献を渉猟すると、チームアプローチを意味する英語は multidisciplinary、interdisciplinary、transdisciplinary がある。この中で、近年の多職種協働 (Inter-professional Work ; IPW) には、患者のニーズをチームの中心に据え、その解決のために専門家たちが共通言語でディスカッションをし、その場の状況に応じて役割を変えながら目的を遂行する transdisciplinary の意味でのチームアプローチが求められている¹⁾。

心臓リハビリテーションに限らず、患者のニーズの解決のために専門家たちが共通言語でディスカッションを行う場の一つが多職種参加型カンファレンスである。多職種参加型カンファレンスとは、患者の診断、治療、教育、リハビリテーションのために現場および周辺環境で当該患者に関わる医療従事者および関係者が、職種や所属の垣根を越えて集い、協議を行う機会であるとされる²⁾。しかし、実際の現場では、暗然と存在するヒエラルキーのような職種の壁に阻まれ、従来の形であるピラミッド型のカンファレンスからなお抜け切れていないことが少なくない³⁾。本来の目的である患者のニーズの遂行のため、より機能的なカンファレンスを行うには、各職種の専門性が等しく尊重され、一人ひとりの意見の重みが同じであるというグランドルールに裏打ちされた、いわゆる水平モデルの構築が必須である。

今回、多職種参加型ワークショップである Honolulu Workshop 2015 に参加し、機能的なカンファレンスのための水平モデルの構築を体感することができた。そこで、Honolulu Workshop 2015 を振り返り、本ワークショップが水平モデルの構築に与えた効果を検証することを目的とし、報告を行う。

Honolulu Workshop 2015 について

[参加者]

循環器内科医師 8 名、心臓外科医 1 名、看護師 1 名、理学療法士 3 名の計 13 名 (男性 4 名、女性 9 名) であった (表 1)。

[概要]

Honolulu Workshop 2015 の開催地はアメリカ合衆国ハワイ州ホノルルで、内容により参加者の主たる宿泊施設「Waikiki Sand Villa Hotel」の会議室もしくは Straub Hospital 関連施設で講義が行われた。開催期間は 2015 年 2 月 28 日から 2015 年 3 月 5 日、移動日を含めて 6 日間であった。

Honolulu Workshop 2015 の内容を①知識の共有、②English lectures に分類し、それぞれが IPW に与えた影響を検証した。①には小崎恵生氏（筑波大学大学院 人間総合科学研究科）による「心腎連関とリハビリテーションの Update」、北村アキ氏（赤穂市民病院心臓外科）による「心臓外科術後の腎機能管理」、北川佐由里氏（光晴会病院理学療法士）による「症例検討」、Kimata CHIEKO 氏（Hawai' i Pacific Health）による「米国の医療マネジメント事情」、都竹茂樹氏（熊本大学政策創造研究教育センター）による「患者さんをその気にさせるアプローチ」が含まれた。また②には齋藤中哉氏（The Honolulu academy of medicine）による医療英語のレクチャー、Straub Hospital への視察および同病院スタッフとの合同ケースカンファレンスが含まれた。各講義の所要時間は、最短約 30 分、最長約 3 時間であった（表 2）。医療英語のレクチャーについては、開催期間の 2 週間前より事前課題が課された。事前課題の内容は DVD 鑑賞、one sentence の抽出、自己紹介の考案、ABC および number の復習で、基本的な英語、特に Speaking に焦点を当てた内容であった。

結果

①の各講義において、日程の序盤に行われた「心腎連関とリハビリテーションの Update」、 「心臓外科術後の腎機能管理」では、主に腎機能および腎血流をどの検査指標で観測するか、運動中の腎血流の絶対値の測定方法など医学・生理学的な内容のディスカッションであった。「症例検討」では特に呼気ガス分析による心肺運動負荷試験結果（Cardiopulmonary Exercise Test ; CPX）に焦点を当て、2 ないし 3 人の小グループでのディスカッションを行った。CPX の指標の中でも Δ HR/ Δ WR および O_2 pulse に着目し提示された症例への運動処方について考えることで、CPX の指標と心臓超音波検査や Body Mass Index (BMI) など他の循環器関連検査項目の関連を学習した。日程序盤に行われたこれら 3 講義は宿泊施設「Waikiki Sand Villa Hotel」の会議室が会場であった。ワークショップ全内容の中で最も医療色の強い内容であった。また、日程の中盤に行われた「米国の医療マネジメント事情」、および「患者さんをその気にさせるアプローチ」の講義は Straub Hospital に隣接した関連施設の会議室で行われた。「米国の医療マネジメント事情」では統計学者である講師が自らの通院体験を交えながら米国における医療保険および医療費の現状を提示するとともに、いわゆる「病院の質」を改善するためのいくつかの試みを紹介した。米国における医療は、保険会社への対応抜きには成立せず、その対策として病院の質の改善があること、病院の質の改善のために近隣の病院との連携やデータの共有が欠かせないことなど、日本との相違点に関心が集まった。Pay for fee から Pay for performance への変換を迫られた米国では、performance の評価を医師個人レベルで実施するなど、評価の仕組みへの信頼度の高さがうかがえた。「患者さんをその気にさせるアプローチ」では、処方しやすく、かつ患者が続けやすい筋力強化トレーニングがエビデンスとともに紹介された。講師がアクシデントで来布叶わず、インターネットの回線を駆使しての講義であった。

②では、主に speaking に焦点を絞り、齋藤中哉氏による事前課題を例にとりながらの English lecture と、現地病院とのケースカンファレンスを含む交流が行われた。English lecture では、事前に課された 4 種の課題の復習を行いながら、日本人共通の悩みである

speaking を効果的に身につけるための Simple かつ Deep な内容であった。日本人にとっては最も苦手意識の高い speaking の導入部分であったが、非常に取り組みやすく、考え抜かれた講義であった。講義では、音韻性言語である英語において発音は非常に重要な要素であることと、伝わる発音のためには口形や舌の動きを意識して動かすことが必須であると、繰り返し練習する中で体感した。発音のために各器官を動かすにはトレーニングが重要で、このことはスポーツと同様であるという講師からのメッセージは、非常にわかりやすく、かつ意欲を高めるものであった。また、現地病院とのケースカンファレンスを含む交流では、実際に患者に関わる現地病院のスタッフとのディスカッションを通して、本邦の日常診療やそれを取り巻く保健医療制度を見つめなおす良い機会となった。ケースカンファレンスでは北川佐由里氏（光晴会病院理学療法士）による症例提示のあとに質疑応答を行った。交流およびケースカンファレンスでは現地スタッフとのやり取りは主に英語であったが、事前の English lecture でわずかながらもトレーニングをした効果もあり、活発な質疑応答であった。

さらに、Honolulu Workshop 2015 全体を通して、職種間の相互理解と水平性が確保された結果、今回のワークショップ参加者内での役割が再構築された（appendix）。

考察

Honolulu Workshop 2015 において、開催地がアメリカ合衆国ハワイ州ホノルルであったことは、ワークショップに非常に大きな影響を与えたと考えられる。開催地が気候も穏やかで過ごしやすい南の島に位置し、また期間中幸いにして天候にも恵まれた英語圏の外国という、開放的な非日常のロケーションであるにもかかわらず、一般的な観光地でもあることから、ワークショップ参加者の多くは再訪、再々訪であった。このことは、抑えがたい観光への欲求と、ワークショップの比重が絶妙なバランスを以て確保されることを意味し、①と②を偏りなく配置したワークショップの効果をより引き出したと考えられる。

①の各講義において、ディスカッションを通じて各職種の意見を傾聴することで、職種が異なれば視点も異なること、必要とする情報が異なることを感じる事ができた。その結果、各職種間の相互理解が促進された。また、②で得た体験は、職種や職種間に暗然と存在するヒエラルキーから離れ、主に英語の発音と speaking という、日本人としての共通の課題に対峙し共闘することで、IPW に不可欠な水平モデルの構築がワークショップ参加者というグループ内で形成された。ワークショップ参加者内での役割の再構築は、職種を枠組みではなく各個人の個性のうちに取り込み、その上でさらに各々の特長に目を向けた結果であり、水平モデルが構築された証であると考えられる。

一方、現地病院との交流において、質疑応答は活発になされたが、日本の心臓リハビリテーションについて、現地病院スタッフからの質問はやはり在院日数と日本の医療保険制度に傾いた印象であった。症例提示で示すだけでなく、症例提示以外の交流場面や雑談場面での質疑応答においても、日本の心臓リハビリテーションの良さをより積極的に提示するべきであった。このことは、今後の課題となるだろう。しかし、今回のワークショップで得られたものを活用し一つずつ実践していけば、十分に達成は可能であると考えられる。今後、日本

の心臓リハビリテーションの良さを日々の診療を通して見つめなおし、各々の置かれた環境で多職種参加型カンファレンスが機能的に実施されたならば、次回以降の機会には、日米双方にとってより一層、得るものの多いディスカッションの場が持てるだろう。

結論

Honolulu Workshop 2015 において、水平モデルの構築の場でもある各講義は、一つひとつの講義そのものも十分に魅力的である。しかし、Honolulu Workshop 2015 に参加することで得られた水平モデルの構築を体感するという効果は、ワークショップ参加後に各々の職場で再び開花する可能性を秘めている点でより魅力的である。心がけ次第ではあるものの、得られた効果が帰国後も半永久的に持続あるいは増大していく可能性も十分にあり得る。今回得たものを大切に育てていきたい。

謝辞

文中の敬称は、Honolulu Workshop 2015 のグランドルールに基づき、職種・役職共通の「氏」としました。Honolulu Workshop 2015 の偉大なる Director 兼 Facilitator 佐藤真治氏はじめ講師・参加者の皆様に心より感謝を申し上げます。Let's keep in touch!!

参考文献

- 1) 石田岳史：今、あえて IPW の意味を考える．ハートナーシング，26 (2)：113，2013
- 2) 齋藤中哉，池亀俊美，佐藤真治，他：多職種参加型カンファレンスの意義と実際（まとめ）－合言葉は There is no 'I' in the team!－．心臓リハビリテーション，16 (1)：72-76，2011
- 3) 佐藤真治，齋藤中哉，都竹茂樹，他：Hawaii in Tokyo－ハワイの多職種融和型医療モデルから学ぶ多職種カンファレンス－．心臓リハビリテーション，15 (1)：91-92，2010

表 1. Honolulu Workshop 2015 参加者の職種および性別

職種	人数 (人)	男性：女性 (人)
循環器内科医	8	4：4
心臓外科医	1	0：1
看護師	1	0：1
理学療法士	3	0：1

表 2. Honolulu Workshop 2015 スケジュール (基本パターン)

	月日	都市名	時刻	日程	食事
1	2月28日(土)	成田 ホノルル	20:00 7:59 17:00	成田空港出発 ホノルル空港到着 ウエルカムパーティー	朝(機内) 昼(各自) 夜(宴会)
2	3月1日(日)	ワイキキ	17:00	Women's 10km Run (希望者のみ) ワークショップ 「心腎連関とリハビリテーション Update」 「心臓外科術後の腎機能管理」 「症例検討」	朝(各自) 昼(各自) 夜(宴会)
3	3月2日(月)	ワイキキ	8:00 13:00	English lecture 「米国の医療マネジメント事情」 「患者さんをその気にさせるアプローチ」	朝(各自) 昼(各自) 夜(宴会)
4	3月3日(火)	ワイキキ	8:00 13:00 19:00	English lecture 現地病院視察(交流、カンファレンス) 懇親会	朝(各自) 昼(各自) 夜(宴会)
5	3月4日(水)	ワイキキ ホノルル	7:00- 11:42	ホテルモーニング(自由参加) ホノルル空港出発	朝(各自) 昼(各自) 夜(機内)
6	3月5日(木)	成田	16:00	成田空港着	

Appendix : Participants characteristics (after Honolulu Workshop 2015)

	人数(人)	男性:女性(人)
Team アロハ(シャツ)	2	2:0
Team 肉食	2	1:1
Team ミステリアス	2	0:2
Team 癒し系(ギャップ萌え)	2	0:2
Team 生徒会(書記)	2	1:1
ビール愛好会	2	0:2
現地(の人みたいな)ガイド	1	0:1

To great participants of Honolulu Workshop 2015: with Love, you will be able to decide where you are☺

Honolulu Cardiac Rehabilitation Workshop 2015 報告書 (2)

財団医療法人中村病院 リハビリテーション部
中島直美

【期間】：2015/2/28～2015/3/4

【場所】：Waikiki Sand Villa Hotel 会議室、STRAUB 病院(ホノルル・ハワイ)

【参加者(敬称略)】：13名

北村アキ，田中俊江，北川佐由里，荒木優，宇賀小百合，矢沢みゆき，太田明子，
平山園子，福島聖二，永島正明，山元佐和子，岩崎義博，中島直美

【スタッフ(敬称略)】：

佐藤真治，小崎恵生

【メインテーマ】：Cardiac-Renal Syndrome の他職種融和型医療

【現地スケジュール】

- 2015/ 2/28(土)17:30～19:30 **★ウェルカムパーティー★**
会場：モアナ・テラス (ワイキキ・ビーチ・マリオット3階)
- 2015/ 3/1(日) 17:00～20:00 **★ワークショップ①イブニングセミナー★**
司会：佐藤真治先生
会場：ワイキキサンドヴィラホテル 会議室
- 2015/ 3/2 (月) 8:00～11:30 **★モーニングレクチャー 1★** 齋藤中哉先生
「Dr. 齋藤の英語で行う医療コミュニケーション」
会場：ワイキキサンドヴィラホテル 会議室
- 12:00 ワイキキサンドヴィラホテル ロビー集合
- 13:00～16:00 **★ワークショップ②米国の医療マネジメント事情★**
Dr. Chieko Kimata
★ワークショップ③「その気にさせるアプローチ」★
★急遽 Skype にて 熊本大学 都竹茂樹先生
アシスタント：小崎さん
会場：STRAUB HOSPITAL 施設内会議室
- 2015/ 3/3 (火) 8:00～11:30 **★モーニングレクチャー 2★** 齋藤中哉先生
「Dr. 齋藤の英語で行う医療コミュニケーション」
- 13:00～16:00 **★ワークショップ④**
STRAUB HOSPITAL 心リハスタッフと合同カンファ★
会場：STRAUB HOSPITAL 施設内会議室
- ★現地病院見学★**
見学場所：循環器病棟、リハビリ室(外来用))
- 19:00 **★懇親会★** 会場：The Willows Restaurant
- 2015/ 3/4 (水) 7:00～8:30 ハレクラニにて朝食(自由参加) 各自帰国準備し帰国

【レクチャー・ワークショップについて】

★ワークショップ①★ 司会：佐藤真治先生

①「心腎連関とリハビリテーションの Update～スポーツ医学の視点から～」

②「開心術後の腎機能管理について～心腎連関の観点から～」

③「冠動脈インターベンション後の心臓リハの実際」

想像していた以上に職種により着目点が異なり、改めて多職種でのカンファレンスの重要性を感じた。そして何より運動処方に大切な CPX の読み解き方について改めて見直すべきであると反省した。

★モーニングレクチャー 1,2★ 齋藤中哉先生

事前課題をフルに生かされての講義。中哉先生の醸し出す温かい雰囲気にもまれて参加者の表情も自然と和む。頭ではなく心を動かす、英語筋を鍛える、そして何より Speak Up! Have Fun! これからもっと英語を学びたいと思えた。



★ワークショップ②米国の医療マネジメント事情★ Dr. Chieko Kimata

★ワークショップ④STRAUB HOSPITAL 心リハスタッフと合同カンファ★

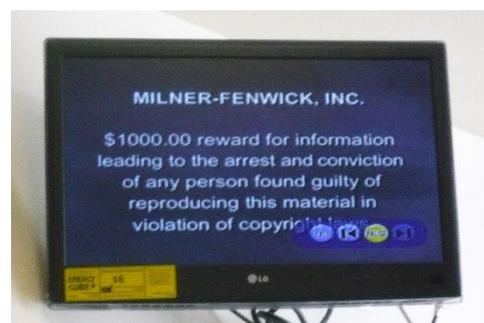
★現地病院見学★

Chieko さんの実際の経験を通して語られるアメリカ、ハワイの医療現場・保険・リハビリの現状に、保険会社が強い影響力を持つことや自己破産の原因として多額の医療費の影響が大きいことなど驚くことがたくさんあった。ワークショップ④では各部署責任者の方より仕事の内容についての説明を受けた。現地スタッフからの英語での説明が十分に理解し得なかったことが本当に悔やまれる。そんな中今回のワークショップに参加した日本人 PT・(日本語の話せる)現地スタッフの大きな後押しを得て、現場で活躍されている心臓リハビリ担当看護師、PT に英語で話を聞くことが出来たことは何よりの収穫となった。度胸不足・準備不足、英語能力不足により、貴重な説明・質問・こちらからの情報提示のチャンスを存分に生かせなかったことが悔やまれ、次回までの宿題であると心得た。何とか再訪の機会を得たいと熱望するものである。

ディスカッションを通して日本の医療現場との違いを感じたが、中でも日本の入院期間からは考えられない程の短さならでは患者教育方法について心に留まった。術後すぐより専門看護師によりの離床・歩行を進め、退院後の管理方法・再発予防についての説明を患者・家族だけでなく周囲の人(友人)にまで説明を行うこと、ベッドサイドでビデオ(巻

き戻しは出来るが早送りは出来ないというシステム!)や退院後の対処方法まで記載された分厚いマニュアルファイルを配布していること、退院後病院から各患者へ電話で定期的に状況確認を行うことなど、参考になることも多く、頂いた貴重な資料を日本語訳し現場に生かせるように取り組みたいと思う。

今回リハビリ室の見学も叶い、説明も受けた。見学した STRAUB HOSPITAL のリハビリ室は外来専用であり、予約制で約 30 分であるとのこと。入院期間中は病棟での活動にとどまり、退院後必要に応じてホームドクターからの指示によりリハビリを受けることが出来ること。また室内はトリートメントルームと (個別にカーテンで仕切られている)、トレーニングエリア (ジムのようなスペース) で構成。待ち時間等にトレーニングエリアを利用するとのこと。システム上の違いはあれ、機能回復には患者自身の自己管理が必要であり、その為にも正しい処方が大切であると実感した。





★ワークショップ③「心臓疾患患者さんをその気にさせるアプローチ」★

“生”都竹先生にお会いできなかったことが残念であったが、優秀なアシスタント（小崎さん）により進行されたインターネット回線を用いてのサルコペニア・筋トレの有用性についての講義は、即戦力となる内容ばかりであった。帰国後、早速頂いた資料にあった筋トレメニューを実践。今後も筋力増強訓練・患者教育（心臓病教室等）で生かしていきたいと思う。



【参加にあたって】

一昨年になりハ学会のホームページでワークショップの存在を知る。昨年は上司に話をするも許可が下りず、本年改めて(熱意を込めて)相談したところ許可を得られ参加が叶った。出張ではなく休暇中の自己学習として参加。前日ホノルル入りできることになった為、ワークショップのみ参加として申し込みをした。

初めてのワークショップ参加にあたり、筆者自身の経験より感じたことを以下に述べる。

●参加前に準備したこと

- ・事前課題（約1ヵ月前よりメールにて案内あり）
- ・ヒアリングの練習（テレビ・映画等視聴、インターネット活用し耳慣らしを試みる）
- ・ガイドブック購入（宿泊施設・ワークショップ会場の確認し、事前に移動手段等検討）

●現地での感想

- ・ツアー参加ではなかったので、飛行機・ホテルを個人手配。

ワークショップ申し込み時点で手配を始め、結果的に宿泊場所はワークショップ会場から

徒歩 40 分かかる位置であった。個人手配でワークショップ参加を検討される際は、ツアー参加者の宿泊場所・ワークショップ開催場所を早めに問い合わせることが必要だと思う。

- ・現地での連絡手段として LINE 等の利用が便利であった。各自 Wi-Fi ルーターの準備をされることをお勧めする。(筆者は連絡手段がないままであったので、無料 Wi-Fi スポットや周りの方に助けて頂いた。感謝)
- ・質問事項・アピールしたい内容を事前に英文にしておくことで、臆することなくチャンスを生かすことができると感じた。

●自由時間等

ホノルル到着後からウェルカムパーティーまで、初日のワークショップ開始まで(朝～夕方)は観光・買い物に時間が当てることが可能。その後は朝早くからワークショップが開催される為難しいと思われる。いずれにしてもワークショップに影響を及ぼさないように注意が必要である。

●服装

ワークショップ中男性はアロハ+スラックス+ビジネスシューズ推奨。女性はジャケットやカーディガン等羽織物が必須。(筆者はパンツスーツ(ジャケット)+羽織物着用で受講。バス車内・建物内のエアコンの設定温度が非常に低い為に寒さ対策が必要)病院見学時はブラウス等の上にジャケット+パンプス着用が適当と思われる。

【最後に】

高校生活において英語恐怖症になっていた私に、英語ができたらもっと楽しかったのにと感じさせてくれたのがハワイだった。初めてハワイを訪れてから約 4 年。【英語で心りハスタッフとカンファレンス】という私にとってハードルの高い目標に向かうのにはかなりの度胸が必要であった。ハワイという土地が持つ独特な雰囲気の中で開催されたワークショップを通し、理解できる喜び、理解される喜びを今までになく深く感じる事が出来た。事前に提出された課題がどのように用いられるかわからなかったが、中哉先生のマジックにかかり楽しく望むことが出来た。“Speak up! “not HEAD, but HEART” “Have Fun!” は私への強い励ましとして今も響いている。

そして、ウェルカムパーティーにて気負い過ぎて「頑張っ勉強します」と発言した私に「何より楽しんでください。その時に一番力がでると僕は信じています！」と励まして下さった本ワークショップのコーディネータ佐藤真治先生、貴重な時間を共有して下さった参加者・スタッフの方々、本当にお世話になりました。心よりの感謝の思いを込めて。Aloha!

